



平成 21 年 5 月 13 日
日本原子力発電株式会社

敦賀発電所 1 号機 制御棒駆動水圧系統ベント弁シート部の傷について

敦賀発電所 1 号機（沸騰水型軽水炉：定格電気出力 35.7 万キロワット）は、第 32 回定期検査（平成 20 年 1 月 7 日開始）において、現在、制御棒駆動水圧系統^{※1}の耐震裕度向上工事として、サポートを含め当該系統配管の一部を交換しています。

工事終了後に行う耐圧試験の準備として、当該系統内の空気を抜くためのベント弁全 146 台（73 基×2）について点検を行ったところ、13 台の弁のシート面に傷や浸透探傷試験による指示模様が確認され、このうち 3 台（入口側 2 台、出口側 1 台）について、弁座のシート面を横断する傷が認められました。

当該系統は、実用炉規則^{※2}での安全上重要な設備に該当し、弁座のシート面を横断する傷が認められた 3 台のうち、出口側 1 台がこの系統に要求される原子炉冷却材圧力バウンダリ機能^{※3}を満足していないと判断しました。

本事象は、実用炉規則第 19 条 17 項第 3 項の報告事項に該当しております。

今後、傷や指示模様の発生原因等について調査を行います。

この事象による周辺環境への影響はありません。

※ 1：制御棒を水圧によって原子炉内へ挿入または引き抜きするために駆動水を供給する系統。

※ 2：実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則

※ 3：原子炉圧力容器や炉心を冷やすための冷却材が通る配管などが含まれる範囲の総称。原子炉の通常運転中は原子炉内部（約 70 気圧）と同じ圧力に保たれている。

添付：敦賀発電所 1 号機の制御棒水圧系統ベント弁点検状況

以 上

敦賀発電所 1号機 制御棒駆動水圧系統ベント弁点検状況図

